

●6年制学科のカリキュラムの特色

薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠し、かつ発展的内容および本学独自の内容を取り入れた問題発見解決型学習を尊重する教育を行っています。大きく基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分かれています。各授業担当教員はそれらを連動させ、連続性のある授業の構築を目指し、実践しています。5年次には保険薬局や病院で実務実習が行われるため、4年次に導入のための演習・実習が用意されています。当薬学部は三重県唯一の薬学部であり、実務実習中やその導入のための事前実習において、三重県内の保険薬局や病院から多大な協力・援助を受け、安心して有意義な実務実習を受けることができる体制を整えています。2年次、4年次および6年次には薬学アドバンスト教育として、より専門的かつ実践的な科目を設けています。さらに、6年次の1年間を通じて5年次までに学んできた薬学に関する知識・技能・態度を振り返って総復習する講義を通じて、薬剤師国家試験や現場に立つ薬剤師としての準備をしていきます。

また、医療・福祉の総合大学としての特性を生かして多職種での交流を通じてチーム医療を実践的に学び、さらに多様な科目を通じてヒューマンリズムや医療倫理を学ぶことで、医療人としてのバランスの良い専門性の高い薬剤師の輩出を目指しています。

●病院や薬局の実務実習 特色や取り組み

三重県薬剤師会・三重県病院薬剤師会との連携により、地域に密着した手厚い実習を行っています。

3. 病院実習先・薬局実習先

主な病院・診療所 三重大学医学部附属病院 など 約50カ所

主な保険薬局 東海地区薬剤師会の保険薬局 約70カ所

調整機構により実習先を確保

●アドバンスト（臨床）実習

各領域の専門家により、4年次および6年次において、以下の薬学アドバンスト教育科目が用意されています。

物理系薬学：「生体機能解析学Ⅱ」/ 化学系薬学：「薬品製造化学」

生物系薬学：「ゲノム情報応用学」/ 衛生系薬学：「化学物質安全管理学」

薬理学：「分子予防薬理学」/ 病態・治療学：「慢性疾患薬物治療学」

薬剤・製剤学：「薬剤設計学」/ 臨床薬学：「薬学計算演習実践」

●多職種連携教育の具体的な内容

本学独自の基礎教育「医療人底力教育」において、4学部11学科15専攻共通の講義・演習・実習を行い、その間は多職種共同で教育が実施されます。また、1～2年次に実施される「慢性疼痛チーム医療者育成プログラム」では、協定を結んでいる三重大学医学部(医学科生、看護学科生)との講義・演習を介して、多職種連携教育として交流の機会を持ちます。

●多職種連携教育を行う医療施設名

鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院、社会福祉法人サス会桜の森白子ホーム、三重大学医学部附属病院、桑名市総合医療センターいなべ総合病院、四日市羽津医療センター、市立四日市病院、三重県立総合医療センター、村瀬病院、塩川病院、鈴鹿中央総合病院、鈴鹿回生病院、三重中央医療センター、松阪中央総合病院、松阪総合病院、松阪市民病院、伊勢赤十字病院、三重県立一志病院、名張市立病院、市立伊勢総合病院

●薬剤師国家試験への取り組み

教員約50名に1学年定員100名という少人数教育で薬学教育を行い、グループ学習などアクティブラーニングを取り入れて薬剤師国家試験合格に向けて取り組んでいきます。低学年次では、授業の振り返りなどでCBT、国家試験と連動した演習を実施し、4年次からは国家試験対策講義、模擬試験などを通じて、知識の現状把握と不明点の洗い出しと問題解決につながる学習をきめ細やかに指導しています。

●卒業研究について

6年制：薬学教育モデルコアカリキュラムにおける問題発見解決型学習の到達点のひとつとして、4年次から6年次の3年間、学生全員が卒業研究に取り組んでいます。配属研究室として、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、衛生系薬学、薬理・動態学、病態・治療学、薬剤・製剤学、臨床薬学の8分野に分かれており、多様な研究課題が展開されています。各分野において優れた研究実績を持っている教員が学生の指導に当たり、学生は研究における手法や理論などを基礎から学び、得られた研究成果をまとめていきます。6年次には集大成として卒業研究発表を行い、卒業研究論文集を作成します。

●4年制学科の教育目標とカリキュラムの特色

該当なし

●入試に合格するためのアドバイス

薬学部で学ぶ為には、「化学基礎・化学」の勉強がなによりも大事ですので、授業や教科書の内容をしっかりと理解しておきましょう。その上で、過去問題集や本学主催の入試対策講座を活用して入試対策をしてください。

本学の選抜方式は、各方式で試験科目や内容、配点が異なります。その為、ある方式で不合格でも、得意科目を活かせる方式で受験すれば合格するケースも多数あります。選択科目によって、有利・不利はありませんので、最も自分の実力が発揮できる科目で臨んでください。

●入試の変更点

■総合型選抜

・5期の追加

※3期以降は、1・2期までの出願状況により、募集を行わない場合あり。

■学校推薦型選抜

[基礎テスト方式]

・基礎テスト方式の得点のみで判定する「基礎テスト重視型」の導入

・学外試験会場の「金沢」「那覇」を増設

[基礎テスト方式・面接プラス]

・廃止

[指定校制]

・3期の追加

※2期以降は、1期の出願状況により、募集を行わない場合あり。

■一般選抜A日程

・学外試験会場の「金沢」「那覇」を廃止

■一般選抜B日程

・数学の出題範囲を「数学(Ⅰ・A)」とする

■共通テスト利用方式 前期

・薬学科の「3科目判定型」の指定科目において「英語」と「国語」の同時採用を可とする

■共通テスト利用方式 後期

・試験科目の得点のみで判定する(調査書の加点数がない)「2科目判定型」の導入

●入試に合格するためのアドバイス

回答なし

●過去問を公開しておられますか

最新の過去問題集はご購入いただくか、進学相談会またはオープンキャンパスにお越しただきますと、無料でお渡ししております。過年度の過去問題集は、本学の受験生サイトで公開しています。

<https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi/etc/document.html>

●面接や小論文について教えてください

質問内容については、本学/本学科を受験し

た理由(志望動機)や高校生活で最も力を入れたこと、好きな教科や嫌いな教科について、入学後学びたいことなどをお聞きます。

医療・福祉関係の専門的知識の有無を評価対象とすることはありませんが、ご自身が目指す職種(資格)について正しく理解できているか確認することがあります。

自分の伝えたい内容を面接官にわかりやすく、かつ論理的に伝えられるように面接対策をしておいてください。

面接試験は出願時に提出された『志望動機書』を参考に行います。ポイントとしては、自分の良い面を積極的にアピールすることが大切です。

面接では主に次のような点を重視しています。

- ①大学(本学)で何を学びたいのか? 目的意識をもっているか?
- ②課題に取り組む積極的な姿勢はあるか?
- ③医療・福祉の仕事への適性はあるか?
- ④大学生になる為の基本的な生活習慣が身についているか?
- ⑤高校生活を有意義に過ごしてきたか?

●過去の小論文の形式とテーマ・文字数

総合型選抜では、テーマ作文を課します。テーマは志望学科(専攻)の学びに関する内容や時事問題に関する内容です。テーマは事前に3題提示され、そのうち1題が試験当日に出題されます。60分間で600～800字程度を論述します。

●大学独自の奨学金制度

特待生(授業料減免)制度…学校推薦型選抜・基礎テスト方式、一般選抜A日程、共通テスト利用方式前期、一般選抜B日程の受験者で、成績優秀者を対象に最長6年間前期授業料を免除します。(入学年次以降、毎年の成績が在籍学科の上位40%以内であれば、翌年度以降の授業料減免制度の適用を継続することができます。)

<https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi/department/specialstudents.html>

●地域のアパート・マンションのモデル家賃

●女子学生寮

入寮費 50,000円 (退寮時のリフレッシュ経費等)

寮費 (月額)48,000円 (ネット使用料・TV受信料・火災保険料込み)

諸経費(月額)12,000円 (水道、電気、ガス代、その他共通経費)

●指定寮

間取り 1K(洋室6～10畳、キッチン、バス、トイレ)

家賃 32,000円～55,000円

(共益費、駐車料を含む)